



表彰状を手にする大石さん（中央）

豊富な経験で教育の振興に尽力

■全国市町村教育委員会連合会表彰

前牧之原市教育委員の大石幸雄さん（静波区）が、長年教育に尽力された功績が認められ、令和3年度全国市町村教育委員会連合会表彰を受賞しました。

大石さんは、15年にわたり牧之原市教育委員長および教育長職務代理者などを務められました。

8月19日、杉本市長と橋本教育長のもとに表敬訪問に訪れた大石さんは「多くの皆さまの力添えのもと、務めることができた」と感謝の言葉を述べました。

安全・安心なまちづくりの推進に向けて

■安心見守り活動連携協議書調印式

「安全・安心なまちづくりの推進に向けて安心見守り活動連携協議書」の調印式が8月10日、市役所棟原庁舎で行われ、戸塚浩之牧之原警察署長、板倉元地区長会長、杉本市長が出席しました。

この協議書の締結により、防犯に対する情報発信体制の強化のほか、地域の防犯カメラや市民のドライブレコーダーなどを「安心見守りカメラ」として活用し、有事の際には市民に画像の提供を呼びかけるなど、地域住民・警察・市が一丸となって防犯体制の向上を目指します。



調印式に臨んだ（写真左から）板倉地区長、杉本市長、戸塚署長

宝くじ助成で消火活動の資機材整備

■自治総合センター 地域防災組織育成助成事業

須々木区自主防災会では8月、宝くじの社会貢献広報事業として一般財団法人自治総合センターが行う「地域防災組織育成助成事業」を活用し、消火活動で使用する資機材を整備しました。

整備した資機材は、可搬ポンプ（C-1級）やポンプ用台車、吸管、管鉗、消防ホースです。

この事業によって、自主防災会の充実や強化が図られるとともに、整備した資機材は、災害時の初期消火活動など、地域の安全安心を守るために有効に活用されます。



整備された可搬ポンプ

相良油田の原油、市民の希望の光に

■東京2020パラリンピック聖火リレー採火式

東京2020パラリンピック聖火リレーで使用される火の「採火式」が8月17日、市史料館前で執り行われました。

採火式では、相良油田（菅山区）で採油された原油を使い、こづみ作業所の利用者の皆さんが火打石で着火させた火を、ランタンに灯しました。

県内35市町でさまざまな方法で採火された火は、この日のうちに「日本平夢テラス」に集められ、聖火としてリレー形式で県内4市3区間を巡った後、東京へ届けられました。



こづみ作業所の利用者による着火

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



核兵器の恐ろしさを後世に伝える

■第11回牧之原市平和展

7月31日～8月10日に、第11回牧之原市平和展が相良総合センターいへらで開催されました。

これは、核兵器の怖ろしさや戦争の悲惨さを伝え、世界の恒久平和を実現することを目的に、毎年開催しているものです。

8月9日には、映画上映と講話のイベントをホールで実施しました。

上映された映画は、アメリカ人監督がビキニ水爆・第五福竜丸被災事件について描いた『西から昇った太陽』（2018年）です。講話では、第五福竜丸元乗組員の大石又七さん（市内在住）の義妹である河村恵子さん（市内在住）が『第五福竜丸事件に思う』と題して、当時の様子や家族の思いなどを話しました。



第五福竜丸事件について講話する河村さん

世界に一つ！自分だけの缶バッジ

■いこっこで缶バッヂを作ろう

児童館主催の「缶バッジ作り」が8月5日、図書交流館いこっこで行われ、約20人の児童らが参加しました。

このイベントは、児童館事業の活動を広げる目的で毎年開催されています。参加した子どもたちは、用意された紙に思い思いの絵を描いて缶バッジづくりを楽しみました。

参加した児童は「好きなキャラクターのグッズを作れてうれしい。とても楽しかった。さっそくカバンにつけたい」と笑顔で話しました。



児童館の職員と一緒に缶バッジを作る児童



フィリピンのゲーム「シパ」を体験する児童

英語で話す楽しさを体感

■イングリッシュキャンプ

「English Camp in Makinohara 2021」が8月4日と5日の2日間、市史料館で開催され、市内小学生35人が参加しました。

児童は2日間を通して、英語を使いながらグループ別に活動。1日目の「カントリーツアー」では、ALTの出身国の文化やスポーツ、ゲームなどについて学び、体験しました。また、グループで話し合って「外国人の人が喜ぶ牧之原市のツアープラン」を作り上げ、最後にそれぞれのプランを発表しました。